

時間について考える

何世紀も経過するにつれて、芸術作品を作るのに使用された物質は劣化し始めています。これは、「伝統的な」キャンバスを基にした作品だけでなく、何千年も前に私たちの祖先によって作られた原始的な手描き絵にも当てはまります。この劣化は目に見えて明らかであり、時間の経過の明白な例として作用します。

この作品のために、サイモン・フジワラ氏は人工の石の上に地元の幼稚園児の手形の輪郭を描きました。この岩はもともと、神社の開放的な建物である絵馬堂に安置されていましたが、そこには時代によって色あせた絵画の例がいくつかあります。時間の経過とともに、手形に使用された水性塗料は、同じく成分の露出によって摩耗するでしょう。皮肉なことに、人工の岩は比較的不変のままであり、永続性の本質についての考えを促しています。